



NO. 285

2017. 3. 15

社会福祉法人 大阪市手をつなぐ育成会  
大阪市天王寺区東高津町12-10  
大阪市立社会福祉センターB1F  
発行責任者 小泉 いと子  
TEL 06(6765)5621 FAX 06(6765)5623  
<http://city-osaka-ikuseikai.or.jp>  
定価 10円

大阪市手をつなぐ育成会 法人理念

障がいのある人が 安心して 心豊かに すごせるように

育成会代表者会議・育成会フォーラムに  
参加して

理事長 小泉 いと子

3月3日(金)に東京にて、全国手をつなぐ育成会連合会が主催で「都道府県・政令指定都市育成会代表者及び事務局長会議」と「育成会フォーラム」がありました。

午前にあった代表者及び事務局長会議では、全国手をつなぐ育成会連合会の田中統括から平成29年度の事業計画作成に向けた素案の説明がありました。主な内容は平成29年度より機関誌「手をつなぐ」の価格改定の経過説明、新規に設置する災害支援基金の目的、昨年度から始まった地域育成会活性化のための研修等助成事業の取り組み状況報告がありました。特に機関誌の値上げについては、各地の育成会から会員数の減少に拍車がかかったという意見がありました。また、北海道育成会からは9月2日と23日に行なわれる第4回全国大会の案内があり、今回は各地のキャラバン隊の活動についての特別分科会が開催されるということでした。



午後にあった育成会フォーラムでは、2つの基調講演とパネルディスカッションが持たれました。

基調講演の①として久保会長から「手をつなぐ」1月号にも掲載された「これからの育成会活動」についてでした。午前の会員数減少の意見に対する考え方に

も繋がるものでした。育成会が設立されて60年を超える月日が経ちましたが、その間に法制度や親の感覚が徐々に変わってきており、全国連合会も含めて各地の育成会でも、これまで通りの方法を続けるのではなく、地域のニーズや親のニーズを正確に把握することが必要と話されました。そのような状況下にはありますが、育成会という親と当事者を支え合う組織は必ず必要なので、新しいアイデアも取り入れ、迅速・柔軟に対応する力を備えて欲しいとメッセージがありました。各地の育成会でも会員が減少しているといった課題を共通して持っているようで、どのようにして会員を拡大していくかという点については、模索しながら日々の会運営をしているようでした。

次に基調講演の②として毎日新聞社論説委員である野澤氏が登壇し、育成会を取り巻く環境についての話がありました。

講演の冒頭では、2005年、2030年、2055年の日本の年齢構成予測が示され、少子高齢化が確実に進んでいる様子を分かりやすく話されました。次に人口減少に伴ない、今後は限られた税収の再分配先が精査され、選択と淘汰の時代が来るといった話がありました。また、労働可能人口が減ることが予測されるため、福祉現場では人材不足と業務の非効率を解消するため、従前の考え方や実施方法に固執せず、新たな仕組みの導入や新たな社会資源を活用する必要もあると話されました。

フォーラムの最後には、近年の福祉施策の動向と、それに対する全国連合会の考え方についてのパネルディスカッションがありました。今回のテーマとしては、地域生活拠点、法3年後の見直し、高齢障がい者と介護保険、成年後見制度、親なきあとのお金、虐待防止法、差別解消法の7つが取り上げられました。

1つ目は「地域生活拠点の整備に向けて」と題し、拠点整備には4つの類型があり、①入所施設併設、②